

# 「日峯社」から 「松原神社」へ

直茂公の奥方と祖父、さらに龍造寺・鍋島両家を祀る神社に。



戸時代後期の安永元年(1772)に藩祖鍋島直茂公を祀る神社として創建された「日峯社」ですが、直茂公没後200年の節目にあたる文化14年(1817)には、直茂公の正室・彦鶴(陽泰院)さまと祖父・清久公も合祀され(一緒に祀られ)ました。

明治時代に入ると、日峯社はさらに大きく変わっていきます。明治5年(1872)には、直茂公の息子である初代藩主鍋島勝茂公が合祀され、翌6年(1873)には龍造寺隆信公、政家公、高房公の三代を祀るお社(敷山社)が金立から松原に遷座され北殿に祀られました。また、南殿には10代藩主鍋島直正公が祀られることとなり、この年から「松原神社」と呼ばれるようになりました。

松原神社は佐賀城下で唯一、郷土の歴史上の人物を御祭神とするお宮として松原の地で変遷を遂げました。



(左上) 龍造寺隆信像、(右上) 鍋島直茂像  
(左下) 鍋島勝茂像、(右下) 鍋島直正像  
いずれも鍋島報効会(徴古館)所蔵